

町文化祭

山桜の里 戸赤

町長賞に輝いた  
コーヒカップ一式  
小椋一さん

「神代檨拭漆盛器」「タガヤサン拭漆方盛器」  
出品者: 室井春雄



《町文化祭で》  
活動内容をPRしていま

「これは何の木をつかっているのかな... 何回塗ったのかな」など、戸赤の木地工房から生まれた作品にも人だかりができ、出展者は素材や漆のことなど聞かれる場面も



町長賞の「コーヒカップ一式」。そのほか「コネ鉢」「茶ひつ」(菓子鉢) 出品者: 小椋一

ふくしまは損けない明日へ

被災地の声

渡部 恵子さん (51)

下郷町



古里のために着地型観光を推進する渡部さん

着地型観光魅力伝える

十月十五日、今年一回目の花豆の売渡が行われました。不作の年ということでも値段を昨年より高く買ってもらいました。原料値上げは花豆パイの売値に跳ね返ることになりそうです。おくやの松崎社長さんは

花豆 栽培

今年品質が良くないのでどこまで商品になるか心配と話しています。夏場の高温期に落花現象がない畑があり、十一月予定の第二回目の集荷に望みがつながっています。

下郷町商工会のスタッフとして、地元で滞在・関連してもらおう着地型観光の推進などに取り組んでいる。震災後、訪れた人に町内各地の魅力を伝え、リピーターになってもらえるよう努めている。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が起きた平成二十三年から同商工会での業務を始めた。震災後は悪評

「一年間の宿泊客数千人以上」との目標も達成し、効果が着実に上がっている。町内は各地域でウオーキングや祭りなどの企画力を入れている。今後、主要観光名所から各地に観光客の入り込みが広がるよう魅力伝えたい。

増えている。国内旅行業務取扱管理者の資格を取るなど旅行商売づくりに向けた専門知識も身に付けた。

二十五年はバナー作りの川遊びなど体験メニューを充実させ、子どもを含めて町内に滞在してもらえ取り組みを進めた。今年には食の安全ツアーで、県外の人に放射線物質の検査などの見学機会を設け、地元産の食材を味わってもらった。「安全の確認にここまで時間をかけているとは知らなかった」との声があり、本県の現状を知ってもらえたと思う。

渡部さん(戸赤出身)の活躍が紹介された福島民報(26. 10. 31付)

【木地の学習No.48】表8

No.	木地師名	出身地	移住地	移住年	No.	木地師名	出身地	移住地	移住年
1	千代之助	信州	岩下村	文化7年	13	銀助	甲州?	八総村	
2	喜兵衛	甲州	岩下村	文化9年	14	平右衛門	飛騨	木賊村	
3	与市	甲州	岩下村		15	忠右衛門	飛騨	木賊村	
4	市郎右衛門	飛騨	岩下村		16	長五郎	飛騨	木賊村	
5	直左衛門	信州	岩下村	文化4年	17	国之助	濃州	木賊村	
6	惣重郎	甲州	滝原村	寛政頃	18	丈助	飛騨		
7	善助	飛騨	滝原村		19	栄右衛門	飛騨	横川村?	
8	平左衛門	信州	滝原村		20	銀右衛門	信州	横川村	文化7年
9	角右衛門	飛騨	糸沢村		21	清吉	飛騨	土倉	
10	初右衛門	信州	舟鼻山		22	藤右衛門	信州	舟鼻山	文化~文政
11	安右衛門	信州	八総村		23	仙次郎	信州	舟鼻山	文化~文政
12	直治郎	信州	八総村		24	藤次郎	信州	舟鼻山	文化~文政

〔会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より (つづく)〕



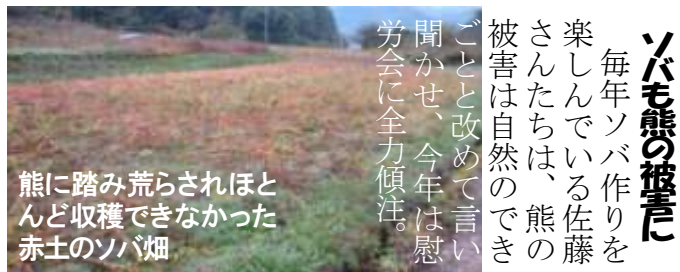
不動様の紅葉「見慣れた」でも「気」なる場所(新聞)



昔から六戸の村、仕事の都合で欠席せざるを得なかつた方からは差し入れがありました

「大正十?『判議不能』に建てた  
稲荷神社の鳥居ペンキ塗り  
(赤土)

「稲荷神社の鳥居は赤い。これがなかなかできなかつた赤土の人たち。ペンキを買ってきて自分たちで塗った十月五日。慰労会の美酒もまた村のきずなとなりました。」



熊に踏み荒らされほとんど収穫できなかつた赤土のソバ畑

ソバも熊の被害に  
毎年ソバ作りを楽しんでいる佐藤さんたちは、熊の被害は自然のできごとと改めて言い聞かせ、今年は慰労会に全力傾注。



刈取り時期の十月十一・十二日やまぎくから学校でソバの収穫祭

(ストーリー性のある村づくりのために[No.17]・下郷町史 烏古瓦(ふるかわら)とは…遺跡で発見される縄文・弥生の土器片を指すものと考えられる。…石鏃(やじり)を出土する場所は上古の村落であり、当時は鉄がないため代わりに石をもって鏃を制作した。いまだかつて土器片のないところで石鏃が出た例はなく、これは石鏃が人工品である証拠である。…河岸段丘上に位置する中妻の栗林遺跡や中丸遺跡などはこの好例で、縄文中期から後期を主体とし、遺跡の規模も大きく出土品も多いので、前述の『新編会津風土記』の記載にあるように早くから注目されていた。こうした段丘の崖下には湧水があることが多く、縄文時代の暮らしぶりがうかがわれるが、近年は休耕地が多くなり、遺跡が確認しにくくなっている。縄文時代以前…下郷町では現在までのところ縄文以前の遺物は発見されていないが、隣町田島の大明神遺跡出土のナイフ形石器は長さ五・六cmの硬質頁岩製で、典型的な杉久保形ナイフであり、同地区寺沢遺跡出土のナイフ形石器もやはり硬質頁岩製のもので、ほぼ同時代のものと考えられる。また、『只見町史』(第1巻通史)によれば、福島県立博物館の表面調査で猿倉遺跡からも杉久保型ナイフ形石器が発見されており、田島の大明神・寺沢山両遺跡に続く三例目のものである。…

「下郷町史-第7巻通史編(発行・下郷町)」より出典(続く)